

# アート と 地域 と 美術館

日時

2023年11月17日(金)

14:30~17:40

会場

鹿児島大学法文学部

2号館 2F ラーニング・commons 2

美術館といえば、まずは作品や展覧会が思い浮かぶでしょう。しかし、美術館の役割や学芸員の方々の仕事は、作品や展覧会に関わる、もしくは受け入れるだけなのでしょうか。そして、作品や展覧会に関わるといっても、実際のところはどのように関わっておられるのでしょうか。今回のトークでは、都城市立美術館の祝迫眞澄さんと霧島アートの森の宮園広幸さんと一緒に、「近くて遠い」かもしれない美術館について特に地域との関わりを中心に話し合います。

一般公開  
参加費無料

申し込み方法

下の二次元コードから事前の申し込みが必要です。



登壇者：祝迫眞澄（都城市立美術館 学芸員）

宮園広幸（霧島アートの森 学芸員）

モデレーター：太田純貴（鹿児島大学 准教授）

〈スケジュール〉

14:30~14:40 趣旨説明

14:40~16:00 登壇者による話題提供・意見交換

16:10~17:40 参加者全体でディスカッション

締切：11月10日(金)  
15時まで

# 登壇者紹介

祝迫 眞澄

(都城市立美術館)



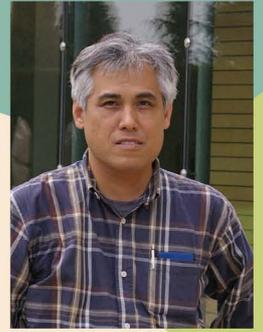
トーク内容 (一部)

- ・ 都城市立美術館のこれまで
- ・ 公立美術館としての役割

鹿児島市出身。2012年東京藝術大学美術研究科修士課程修了(日本・東洋美術史)。専門は日本中世絵画史。2013年より現職。都城市立美術館では、近・現代の都城、南九州ゆかりの美術を中心に調査・研究、紹介を行う。「鱸利彦生誕120年展」(2014)、「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」(2016)、「平山郁夫展 よみがえるシルクロード」(2018)、「日本美術の源流 雪舟・狩野派から近代洋画」(2021)などを担当。

宮菌 広幸

(霧島アートの森)

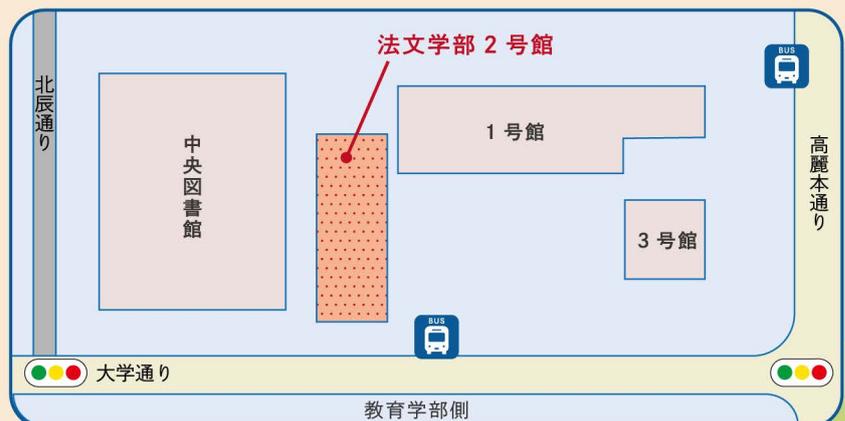


トーク内容 (一部)

- ・ 美術館とサイトスペシフィック・アート
- ・ 地域と協同するアート・プロジェクト

鹿屋市出身。武蔵野美術大学卒業、鹿児島県教員採用。JICA海外協力隊や日本人学校派遣を経て、霧島アートの森整備事業から通算12年間、学芸業務に携わる。2004年度の美術館連絡協議会学芸員助成にて「シヨナ彫刻」研究(ジンバブエ渡航)。彫刻家として、文化庁現代美術選抜展、岡本太郎現代芸術大賞展などに出陳。南日本美術展海老原賞にて2008年度イギリス留学。鹿児島県庁、鹿児島市立美術館、長島美術館などに作品所蔵。

会場の見取り図



駐車スペースには限りがあるので、可能な限り公共の交通機関をご利用ください